

第5回鹿児島市地域力再生検討委員会 会議概要

日 時：平成20年4月30日（水）15：00～17：00

場 所：鹿児島市役所 東別館9階 特別中会議室

出席者：市民局長、市民部長、市民参画推進主幹、地域振興係

鹿児島市地域力再生検討委員会委員 12人(岡本委員・中村委員欠席)

1 開 会

2 意見交換

- ・町内会の連合組織について

3 その他

- ①「地域力再生検討委員会」中間とりまとめについて
- ②今後の日程等について

4 閉 会

会 長

- ・平成20年度、最初の地域力再生検討委員会を始めさせていただく。
- ・本日の出席状況の確認をさせていただくが、事務局へ届け出があるか。

事務局

- ・岡本委員、中村委員については、所用のため欠席届が出ている。
- ・去る4月1日付け人事異動に伴う事務局職員の交替について報告する。
市民局長の木佐貴、その隣が市民部長の伊藤である。
- ・市民参画推進課長の上之園については、所用のため欠席させていただいている。

事務局

- ・お一方ずつ、ごあいさつをいただきたい。

※木佐貴局長あいさつ

※伊藤部長あいさつ

会 長

- ・事務局から、「資料1」、「資料2」、「資料3」を事前に送付させていただいたが、お持ちになられているか。

委 員

- ・はい、という声あり。

会 長

- ・「資料1 第4回検討委員会会議概要」について、修正等ないか。

委 員

- ・はい、という声あり。

会 長

- ・修正等なければ、この内容でホームページに掲載していく。
- ・「資料2」は、第4回検討委員会で出された意見等を事務局で整理したものである。
- ・「資料3」は、第3回検討委員会で配布した「地域力再生検討委員会における意見等の分類総括表」に、第4回検討委員会で出された意見等を追加し、テーマ毎に細分類したものであるが、これらの資料もすべてそろっているか。

委 員

- ・はい。という声あり。

会 長

- ・地域力の再生は、既存の住民自治組織である町内会が核となるということを前提に様々な意見をいただいていた。
- ・町内会の成り立ち等を考慮すると、単位町内会の活性化が地域力の再生につながると考えているが、それぞれの地域においては複数の町内会合同で行事等が行われている事例もあるという視点も踏まえ「町内会の連合組織について」を新たなテーマとさせていただいた。
- ・補足説明等があれば、事前に説明いただいて審議に入りたい。事務局よろしいか。

事務局

(参考資料1・参考資料1-2に基づき、市内の状況について説明)

山下委員

- ・私の町内会は10町内会で組織する連合町内会に入っているが、町内会長が話し合いをするだけで実際の活動は殆どしていない。
- ・校区内で活動しているのは町内会と民生委員、児童委員で構成している校区社会福祉協議会で、子育てサロンや運動会、御達者クラブなど行政から補助を受けて、かなりいい運営が出来ているが、町内会長歴30年以上の方がおられる一方、毎年町内会長が交替される所もあるなど町内会間に大きな格差が生じ、非常にいびつな連合組織になっている。
- ・単位町内会間で力関係が偏ると、公平平等な連合組織はなかなか成り立たない。
- ・町内会の連合組織は、特定の町内会を中心としたいびつな組織になり、市の意見や住民の意見を吸い上げる団体ではなく、逆に圧力団体になる可能性が非常に強いと思う。
- ・市では「おーい班長さん集まれ講座」という講座を実施しているが、こういうのを増やし単位町内会を活性化する方策を考えた方がいい。

会 長

- ・今の意見を踏まえ、その他にないか。田上委員、どうぞ。

田上委員

- ・私の団地は3つの町内会に分かれ、校区内には保育園・幼稚園が各1か所、小・中学校が1か所、高等学校が1か所で、非常に校区連合組織が成り立ちやすい好条件にあり、情報交換や行事などを3町内会合同で実施している。当団地は、そういう格差が生じないような組織がもともと出来ていたので、スムーズにいらっていると思う。

会 長

- ・二つの町内会の連合組織の運営事例があったが。田原委員、どうぞ。

田原委員

- ・町内会の連合組織をつくったら地域力が再生するかということに関しては、否定的である。
- ・反対の立場でいくつか述べるが、鹿児島市を網羅する組織がないから、連合組織を積極的につくるとい理由が考えられないということ。町内会活動を活性化するためだと言っても、実際の現場は単位町内会それぞれにあり、そこが工夫して対応しないと活性化はない。
- ・町内会活動の中には、単独より複数で行った方が効果的なものもあり、私の経験では、七草会や敬老会など小学校区で実施すると、人数も集まり、出し物や予算面など、ある

程度スケールメリットを享受できるので、活動毎に検討すれば良いものと思う。

- ・今、コミュニティは自分達の手で知恵を出し活性化しようという流れになってきている時に、広域の連合組織ができると、実際いろんなことを行政に陳情するような形になり、せっかく自分達でやろうという流れを後退させると思う。
- ・衛生組織連合会のように、目的が市域全体で取り組むような、全市域を網羅して活動した方がいいものもあるが、町内会の連合組織はそれにはそぐわないと思う。

会 長

- ・3委員から単位町内会を活性化の方がより現実的ではないかという意見等が多いようだが、その他いかがか。

西村委員

- ・校区内に連合組織はあると思うが、うちの町内会は入っていないと思う。
- ・市には衛生連という組織があり、この組織は各町内会の会長が代表になっているので、あえて町内会の連合組織が必要かなと思う。
- ・自分達の町は自分達で特色あるものをつくれれば、町内会は活性化と思う。町内会の活性化には色々な活動があるが、私の所では維新ふるさと祭りや偉人祭など、人が集まる方法を講じてきた。
- ・6町内会の会長には、常にいろんな会や行事がある毎に協力は求めており、これ以上、町内会としての役割が必要か。また、担わせられるのかという気がするので、連合組織はどうかと思う。
- ・個々の町内会単位で、それぞれ活動を続けていければ十分だ。

永山委員

- ・私の地域では、約20町内会で構成する地域町内会連絡協議会や校区公民館運営審議会を基盤にした校区町内会連絡協議会という会長会が発足しつつあると聞いている。このほか、地域開発促進協議会という組織もあり、行政にいろんな陳情をしており、それぞれの役割を持った組織が地域の特色を活かした中で存在している。
- ・校区単位で町内会をどのようにまとめるか、未加入世帯が多い中では、町内会が地域の基盤となって動けない事態にあるのは現実だ。
- ・校区の中では、町内会が基盤となりネットワークの中心ではあるが、それ以外の部分も校区として捉えていかなければならない。
- ・単位町内会が活性化して加入率が増えないと、結局、町内会が担っている校区公民館運営審議会や校区社協の負担金も少なくなり、色々波及する部分が大きくなっていくので、連合組織より単位町内会がしっかりしないですとどうするということに至っていると思う。

会 長

- ・吉見委員、どうぞ。

吉見委員

- ・行政が市民参画・協働ということで市民とタイアップしていく時に、従来からある町内会組織を活用することは行政側にとって非常に都合がいいが、加入率 60%と年々減少してきており、今の町内会という組織にだけ頼ることは大変先行きが暗く改善していく努力は必要だ。
- ・都市化すると段々独居の方が増えてくるが、そういう人達にいかん情報を提供し参画を促すかが、これからの大きな分野だと思うので、町内会という組織を改善することと平行して、個人個人に向かって情報を提供し参画を促すことが大事ではないか。

会 長

- ・その他、ご意見はないか。

井前委員

- ・町内会の現状を踏まえ、小学校区を範囲とした連合組織ではなく、地域の3、4つぐらいの町内会がひとまとまりとなった連合組織は出来ないかということで、ある程度まとまった地域で「みんなで参加わがまちづくり支援事業」など活用出来ると、単位町内会として活動するよりメリットがあるのではないか。

事務局

- ・みんなで参加わがまちづくり支援事業は、複数の町内会が合同で実施した場合にも補助対象としている。ご活用いただきたい。

安藤委員

- ・校区町内会長連絡協議会は親睦を旨とするような会であるが、校区の会長が半年に3回程度集まり、不法投棄の問題やごみステーション、分別の問題など色々な悩みを出し合い話し合うことで、自分達の校区内の会長会で役立っている。
- ・町内会活動に対する行政からの補助制度はあるが、小さな町内会ほど会長、会計の業務的実力というのか、町内会で行事を実施しているのに補助申請をせず、もらい損ねているところがある。

河原委員

- ・小学校区単位の活動は、多くの住民にとって最もなじみやすく、人口規模が程々で自分

の町内会の範囲だけで考えるより視野が広がり、地域の問題を考え、改善していこうという議論になりやすい面があり、本市には、たまたま、その活動の単位として校区公民館という制度もある。

- ・他都市において小学校区を単位とした連合組織が担っているような事を、本市では校区公民館の活動でかなりのところまで担っていると思うので、校区公民館の活動が盛んであれば、町内会の校区連合組織の出る場面は無いのではないかと。
- ・校区公民館も含め校区単位の活動ができる仕組みがあるところや町内会の連合組織があるところ、そういう仕組みが全くなく単位町内会が単独で活動しているところを比較すれば、校区単位の活動の優位性が見えてくると思う。
- ・いろんな都市を社会学者が研究しているが、全市域を網羅する連合組織は1回つくと、結成後2、3年ぐらいは活発に活動しているが、3、4年ぐら経つと、市役所の方が重たくなり、だんだん形骸化していく。
- ・連合組織をつくる必然性が、単位町内会長から何も要望も出ていないのに、無理してつけない方がよい。

会 長

- ・その他、ご意見はないか。柳委員、どうぞ。

柳委員

- ・今までの会議の流れでは、地域力の再生を検討するという形で始めていたのに、なぜか町内会の話し合いになっていて、地域力＝町内会という形になっている気がして違和感がある。
- ・今日の協議テーマが連合組織の件になったことについて、事務局から説明をいただきたい。

会 長

- ・事務局、どうぞ。

事務局

- ・地域力を再生するためには、既存の住民自治組織である町内会が核となるのではないかとということで意見をいただいて来ている。その中で、連合組織というのは、地域活動の中でも事例があることから、最終命題は地域力の再生だが、複数の町内会がスケールメリットということで活動することが地域力の再生につながる一つのやり方としてあるのかということで、意見をいただこうという趣旨である。

吉見委員

- ・行政からみた地域力の再生とは、何を意味しているのか。

委員

- ・そこは、私たちも一緒に考えていいのではないか。という声あり。

吉見委員

- ・行政側が期待している地域力再生とは何か、本音を聞きたい。

事務局

- ・第1回検討委員会において、「地域力とは、住民自らが地域の諸課題を共同作業で解決し、少しでも住み良い地域社会をつくり出そうという住民の主体性に裏打ちされた意識の結集」という説明をさせていただいている。

田原委員

- ・意見交換のテーマについては、丁寧に拾い上げられたと思っている。吉見委員の意見は、どちらかという次のテーマで取り上げてもいいのではないか。

事務局

- ・各委員から、個々の町内会に濃淡があるという時に、1ステップも2ステップも飛躍したような連合組織についてのテーマはどうかと内部でも検討したが、論議のたたき台というのを出すという意図であり、連合組織に向けて、市が誘導するというものではない。

吉見委員

- ・今後は、たたき台か本音か言っていただきたい。

永山委員

- ・限界集落のような地域になった場合、どう維持していくかとなったときには、やはり連合組織的なものや隣り合わせでつくらざるを得ない状況もあるのではないか。
- ・人口が多くても活動を進められないという限界もあり、町内会ができないところをどうNPOが埋めて発展、活性化させていくのか、これから審議しなければいけないと思う。

安藤委員

- ・限界ということでは、若い人やいろんな人がたくさんいて密集しているが、協力度合いが少ないということ。

河原委員

- ・先程の柳委員の話だが、地域力再生のためにどうしたらいいのか、それとも、地域力再生のために町内会を活性化するにはどうしたらいいのかという、どちらを議論するのか、第1回の検討委員会時にはっきりしていると思う。私の理解は、町内会を活性化するためにはどうしたらいいのかということで、議論しているつもりだが、皆さんどうか。

委員

- ・その通り。という声あり。

河原委員

- ・個々の単位町内会を越えて活動がなかなか出来ない、あるいは、隣の町内会と議論や連絡調整など取り合うこと自体も単独で存在している時はなかなかしないと思っていることが意外に多く、そこを補完するのが、校区単位の連合組織や校区公民館であり、それができるような道筋を、行政としても単位町内会に対して示しておく必要がある。

会長

- ・城本委員、どうぞ

城本委員

- ・連合組織になっても、ならなくても、資料にあるようなデメリットが町内会にも出ているから、人が増えずにいろいろ問題になっている気がする。
- ・連合組織のメリット・デメリットは、単位町内会と一緒に、連合町内会の中で町内会長などの親睦が図られるというのは、単位町内会でも自分達でやろうと思えばどこでも出来るし、情報交換の場もつくろうと思えば町内会内でも出来ると思うので、全部に情報が届くような情報伝達の面も、これから議論していく価値があると思う。

会長

- ・第1回検討委員会においては、地域力再生とは、地域をどうしていくかということと、既存のものをどう再生していくのかということ、また、町内会は鹿児島市の地域活動の根本をなす組織だが地域性により違いがあり、町内会活動が基本的にどうなっているのか、委員が共通認識を持つことが出発点であるということでお互い確認した。
- ・町内会の加入率や転出入者の情報の把握についても議論し共通認識を持ってきた。その中で、役員とかリーダーの資質の問題、個人的な問題でリーダーを捉えているのではなく組織のマネジメント力がリーダーの資質につながっていくということで話が進められて来た。

- ・地域力を再生していくということは、加入率を上げることなのか、組織自体を活性化することなのか、伝統的な行事や地域性をもう1回見直すことなのか、それから、組織の評価、検討も必要なことではないかということも出た。
- ・町内会を活性化していくためには、行政とうまくリンク、協働することがメリットがあるのではないかと。町内会が唯一絶対だとは誰も言っていない訳で、それをどうしたら今よりも再活力を含む組織に変えられるか、町内会とNPOなど他の地域団体も含め、行政との連携協働のあり方についてこれまで話し合ってきた。
- ・本日のテーマである町内会の連合組織については、単位町内会と同時に全市を網羅したような連合会組織の必要性を言っている意見もあることから、たたき台ということで提案したもので、プロセスとして良いか悪いかではなく、そういう考え方も踏まえた上で、中間報告でとりまとめればよいのではないかと。
- ・連合組織については、資料のメリット、デメリットがすべてではないが、こういう考え方も基本にはあり、組織が大きくなると意思決定も大変である。
- ・連合組織は、自分達の地域のことよりも、組織自体を保全するための団体になってしまう、そういう危険性もあるのではないかと。
- ・時間がおしてきたので、先に進めさせていただく。次のその他に入りたい。町内会の連合組織については一通りよろしいか。

委員

- ・はい。という声あり。

会長

- ・中間のとりまとめについて、8月を目標に地域力再生検討委員会として進めさせていただきたい。事務局どうぞ。

事務局 （参考資料2に基づき、説明）

会長

- ・参考資料2で、地域力再生検討委員会の中間報告の構成案をお示ししているが、各委員のご意見をいただきたい。

田原委員

- ・自分達が行政サービスの一翼を担っていかなければいけないという時に、行政側の実態を情報公開、情報開示することが必要だと思うので、鹿児島市の現状を盛り込んでいただきたい。

- ・地域力が再生された状態とは、イメージとしては、人が集まり、お金も集まり、にぎやかに楽しげにやっているような状況が実現できれば、町内会は活性化していくと思うので、私達も行政も発想の転換が必要だと思う。
- ・約10年前に、NPOの先進地視察で東京の4市ぐらいにまたがる当時約20万人の多摩ニュータウンの例を見た。企業をリタイアした人がその中の一つの団地の役員になって、老朽化したサッシ交換工事の際、自分のところの建物だけでは業者とうまく交渉が進まなかったため、周辺の団地を巻き込み、NPO法人を立ち上げてスケールメリットを活かしビジネスとして交渉を進めたところ、次第にリタイアした人たちがどんどん集まり職を得て活躍していた様を見てすごいと思った。
- ・「やなだん」の視察でもスケールは違うが、人がいて、お金が集まり、しっかりとしたビジネスモデルが出来上がっていた状況を見て、町内会もリタイアした人など専従で役員になり、それなりの報酬が得られるような、ビジネスとして回っていくようなのを組み立てられればいいのではないかと。前例にとらわれなければ色々なことが出来ると思う
- ・コミュニティビジネスと言われるものが、町内会で出来るような状況があれば、仮にリーダーの年間報酬が100万円であっても、会員がそれ以上にサービスを受けたと納得すれば理解が得られるのではないかと。知恵を出せばいろんなことが出来る可能性があるということを含め、リタイアした人や若い人にも役員に挑戦してもらうようなものを盛り込めたらと思う。

会 長

- ・その他、ご意見はないか。城本委員、どうぞ。

城本委員

- ・中間報告は、何処に開示するのか。

事務局

- ・委員会として外部にも公開する。この委員会は一般市民も知っており、1年経過したということで、その審議過程の中間的なところで一回報告し、その後最終報告する。その間にいろんな反響があった場合、再度、委員会に諮ることになる。

城本委員

- ・どこまで開示するかで、報告の内容も変わってくるので。

会 長

- ・再生検討委員会の設置は、市民のひろばでも既に広報し、公的な形で進められており、

市民も検討経過については関心を持っていることから、中間報告については、事務局からホームページ上で公開するということである。それを踏まえ、河原委員、どうぞ。

河原委員

- ・ 中間報告は我々が分担して作るのか、事務局が作成するのか。これまでこういうような審議会の報告は、事務局が案を作成するのが多いので、そこら辺の確認が一つ。
- ・ 3のテーマ別の意見整理のような形でまとめていくことになると思うが、地域力が再生した状態とはどういう状態なのか、行政やこの委員会はどう考えているのか、明確に書く必要がある。
- ・ 地域力が再生した状態に、町内会がどういうふうに結び付いているのか書かないと論理的につながらない。
- ・ 地域力再生のためにはいろいろな団体があるが、その中で町内会がとりわけ重要で、必要であるということが当然の前提になって議論をしてきているが、6割しか加入していないということは、そう思わない人が増えているわけだから、町内会がなぜ必要なのか、もう1回ゼロから書かないといけないと思う。

事務局

- ・ 中間報告及び最終報告のたたき台は事務局が作成し、委員のご指導をいただきながら変更や修正をしていく。
- ・ 中間報告を出して、具体的に町内会や地域力が活性化するという決定打が見つかるかどうかは分からないが、委員会で出された方向的なものは書いていけるのではないかと。
- ・ 事務局として、中間報告のイメージはこういうことだと思っているが、やってみないと分からないということが現実的にある。
- ・ 根本は市民の方々の意識、心の問題に寄るところがあり、事務局としてすばらしいたたき台ができるかどうか自信が無いが、一生懸命取り組みたい。

吉見委員

- ・ 鹿児島市は全国に先駆けてパブリックコメント制度を導入しているが、実際に出てくるのは数%で、その中で採用されるのは2%ぐらいしかない状況をみると、行政はほとんどが想定内であり、市民の意識としては、大抵は行政に一任しているということだ。

城本委員

- ・ 中間報告をホームページで公開するとのことだが、一番見たい人達がホームページを調べてまで見ると思うか。若い人達も市役所のホームページを調べて、わざわざ市民参画推進課のページを検索するとは思えない。

事務局

- ・中間報告をホームページ上で公開していることを、テレビスポットやラジオスポットを活用し、行政情報として広報をしたい。

永山委員

- ・一番目に触れてほしいのは現町内会の役員さんなどだと思うので、ある程度簡単なものでもいいので町内会に流して欲しい。

事務局

- ・最終報告が年度末の予定で、委員会として、市長に提言として報告したものと同一ものを全町内会に提供する。

永山委員

- ・最終報告時より中間報告を提供し各町内会がどう思うのかという部分が、何か意見を吸い上げられることがあるのではないか。

事務局

- ・委員の中には、地域活動関係者ということで、現町内会役員など地域や年齢構成を考え、市内全域の地域活動を色々経験された方々がおられるので、平均的なご意見がいただけているものと思っており、町内会へは最終報告を提供させていただこうと考えている。

会 長

- ・その他、いかがか。

事務局

- ・田原委員から要望があった行政の情報公開について、市の統計的なものと理解したが、中間報告に市の財政状況等を出すと、財政が苦しいから、自分達のことは自分達でやってほしいと言っているのではということにもなりかねないのではないかと考えているが、具体的にお示しいただきたい。

田原委員

- ・検討委員会設置の目的に入ると思うが、地域力再生検討委員会が設置された背景とか、歴史的な背景、現状認識があって、その中で、鹿児島市に限らず小さな行政という流れから、コミュニティで出来ることはコミュニティでというようなことであり、市の財政状況ということは全然考えていない。

- ・今、どちらかというあまり税金がかからずに、それなりのサービスを受けられるという選択をしていると思うので、それなりのコスト、それなりのサービスの中で、コミュニティにおいて自己責任、自発的意思により力を発揮できるようなことが求められているというのを背景に入れてもらいたい。

安藤委員

- ・町内会や同好会など、全体が一つになってコミュニティをつくっていくことが安心安全につながる。これが、一番目的であり、NPO を町内会で立ち上げ何か事業をするのもいいが、全体的には、とにかく仲良くでき、お互い挨拶ができればいいと願っているところが多いと思う。

会 長

- ・時間をおしてきているが、中間報告の構成について、いかがか。

山下委員

- ・鹿児島市は、行政として色々な支援策を実施しているが、住民が意外と活用していないので、やはり行政から活用方法を伝えたり、情報公開することが本当の協働作業であり、地域がますます活性化していくと思う。
- ・組織によっては、活動が盛んなところや現状のままでもいいところなど色々あるので、行政として引き上げていかないと地域自体はよくなるらない。

会 長

- ・ありがとうございました。永山委員。

永山委員

- ・町内会とは何ぞやという定義をしっかりと位置づけないといけない。地縁という、土地がつながっている域の中が町内会であるということと、町内会員は会費を払ってこそ町内会員であるということの二つが町内会の大きな定義ではないか。
- ・地域の活性化は、地続きでいる人たちの親睦やコミュニケーション、コミュニティをどうしていくのかという中で、市は防犯とか防災ということで、安心安全課が地域の盛り上げ役になっているけれども、地域がどうあったらいいのかという部分を町内会単位にも位置づけていく必要がある。
- ・これまでの協議の中では、地域における現状と理想論を話して来たと思うので、これから現実はどうしたらいいのかという部分を大いに盛り込んだ中間報告になればいいと思う。

会 長

- ・ありがとうございました。西村委員、手短に、どうぞ。

西村委員

- ・地域力は町内会だと思う。鹿児島市の人口や世帯数は増えているのに、町内会に入らないことが問題で、町内会の魅力、町内会とは何ぞやという時に、現実的にこうだと言える人は少ないと思う。
- ・この中間報告の中で、町内会とはこういうものだという、町内会の良さを本当に分かりやすい言葉や文言で書ければ、この委員会の設置された意義がある。

会 長

- ・地域力再生検討委員会を設置した時、地域力とは何を指すかということから出発して、既存の組織で、有効で、効果的な町内会を地域の中で活用するのは、当然ではないかとお互い確認をしたと思う。
- ・町内会の組織の加入率が6割とか、7割とかあまり大きな問題ではなく、1%落ちたからその地域活動がそれだけ停滞するかということそうでは無い。
- ・他都市や他県と人口規模も違うのに数字だけで比較し、活性化しているかどうかという論議もあるが、それも正しくは無いと思う。地域が一番求めているものが、動かなくなっているのは何なのかということを考えないと、全体の加入率ばかりに論議を集中するのはいかななものか。
- ・町内会の人達が地域の良さをよく知っているということは重要なことで、そこは住んでいる人のための町内会であって、第三者が客観的に見て評価することではないと思う。町内会に加入している人たちが、どういう意識やどういうメリット・デメリットを感じているのか、そして、自分たちの力で改善しようとしているのかしていないのか、できないとすればどうするかということ、この委員会は吸い上げていく基幹的な役割をしている。
- ・1年間論議してきたことを中間とりまとめという形で、完全ではないが情報公開をすることは当然の流れで、とりまとめの方向性についてお諮りしたが、最終報告のようなとりまとめの問題が出てくると大変難しいと思う。
- ・地域力再生に決定打は無いと思うが、どうしなければいけないかという意識はみんな持っていると思うので、今何が一番大きな課題なのかという問題意識は立てられると思う。仮に決定打が出されても、誰がするのかということ。委員会としていくらいい提言をしてもやらなければどうなるかということ。
- ・それぞれの町内会はそれぞれ事情や人口規模、組織率が違うので、そういうことを含めて、中間報告では大きな方向性を示していくと同時に、できるものは何かということ

我々自身がつかみとっていかないと、町内会自体うまく機能しないことになるのではないかと。

- ・構成案では、地域力再生のためにということで、地域主体性の強化、意識改革、行政の支援という三つが文言で出されているが、こういうことを柱にしてはどうかということで、他に中間報告で出してもらいたい事があれば、事務局と検討させていただく。こういう形で8月の中間報告に向けて進めてよろしいか。

委員

- ・はい。という声あり。

会長

- ・時間があと5分となったが、その他に入ります。中間とりまとめと今後の日程について総括して説明願いたい。事務局どうぞ。

事務局

- ・次回の検討委員会では、事務局からたたき台として「中間報告」の素案を準備させていただき、ご意見を伺いたい。
- ・日程については、8月上旬を予定しているが、皆様方のご都合等も勘案しながら、できるだけ早い時期に開催日をお知らせしたい。

会長

- ・8月上旬に町内会の色々な行事もあるかと思うので、早めに調整していただきたい。
- ・今日は大変貴重な意見や提案をいただいた。また、テーマとして入れて欲しいものがあればご連絡いただきたい。以上で第5回の地域力再生検討委員会のすべてを終了させていただく。長時間ありがとうございました。